

森島壮太郎

第 5 号
H. 1. 8. 1

明 る い 家 庭

庄司 善男

近所に住むA君のことについて、小学校当時の担任の先生から聞いた話である。A君は、学力はそう高いほうではなかったらしいが、3年生の理科で「蚕」を飼う学習をしたところ、卵から幼虫が生まれると、桑の葉を取ってきて「ぬれた葉を食べさせると死

ぬよ。「小さいうちは、細かく刻んで食べさせないと。」と、繭作りの下準備から糸取りまでA君は、学級の先生と なったそうである。途中、学級担任の先生は、「じいさん とばあさんがこうしてやるもん。ぼく、一緒にやるから分かった。・・・」こんな言葉を耳にしたという。

そのA君が、昨年就職し、自炊生活をしているが、お祭りに遊びに来て、「電気釜で炊いた御飯がおいしくないの で、母が手で水加減をしているの を思い出してやってみたら、母の味の御飯ができた。」と、自慢げに話してくれた。

蚕の飼いかたも、御飯の炊きかたも、手伝いという体験から得た宝である。幼い頃から の家庭内の協力、そこで育まれた豊かな心が、社会人になっても失われず、周囲の人々の心をも刺激する。

地域での集まりのたびに、「こうしなければ」「こうすれば」と、理屈はよく出されるが、最近ではA君の家庭のように、実践させて体得させた話は少なくなってきた。そこで、口先だけの育て方にとどまらず、親と子、あるいは地域ぐるみで、清掃活動に、除草に、花いっぱい運動にと参加したり、むろん、日常の平凡な生活の中でも、多くの貴重な体験を積ませることが、見よう見真似から生まれる心の豊かさを育てていくのではないだろうか。

(施設長)

コ ラ ム

◎ 新年度にはいって、新しい行事も企画した。その一つに自由ドライブがある。自由ドライブの主旨は希望する利用者に対して行ってみたいところなどへ小ドライブしようというものである。

現在(六・三〇)まで、三回実施。六名が、森吉町「浜辺の歌音楽館」見学、ジャスコ大館店での買い物食事を楽しんだ。

ある程度の自由もきき、家族とあつたりして、私達もいつもと違う一面を見せてもらった。

◎ もう一つは茶話会の実施である。職員特に普段あまり話す機会のない、事務職員等にも参加してもらい、昔話などに花を咲かせた。買ったばかりのお菓子をたくさんテーブルに並べてしきりとすすめてくれたり楽しいひとときを過ごすことができた。

◎ 今後の施設の方向をこれからから、かいま見た感じがする。

生きがい

柴田 信行

身近なところから自分のできることを成し遂げてみたいと考えている。
まず仕事のエキスパートになること、仕事の範囲を拡大していくことを自分に課し、同時に自分自身を人間的に高めて行きたい。そのためには

仕事のみには埋没することは危険であろう。広い視野を持ち、一つの事を多角的に見通す力も養いたい。仕事を離れての余暇を充実させることも人生を豊かに生きるためには欠かせないことだと思う。
(寮 父)

私は「ヨロイドン！」

したばかり・・・です

春日 葉子

生きがいということとは、ある目標に向かって努力する過程の充実感であり、その目標が少しずつ達成されていくことへの喜びであると思う。従って目標を明確にするということが第一に求められる。
目標のない人生には生きがいもない。
「仕事が生きています」とか、「家庭が生きています」という言葉をよく耳にする。しかしその背後にある真の意味は、仕事や家庭という媒体に、ある可能性を見出し、その可能性に対する期待を込めて日々努力していく過程を指すと私は捉えている。

仕事や家庭は生きがいを求める媒体であり、生きがいそのものは個々人の内部に潜むものであると考える。つまり自分自身を、目標にむかってどのように前進させるか。また可能性にいかにか賭けるかという精神がなければ生きがいはぐらついてしまう。

私は自分の選らんだ職業のスペシャリストとなること、そのために努力することを現在の生きがいとしている。だが、まだまだ未知のことが多すぎる。将来それらを一つ一つ身につけて着実にスペシャリストの道を行きたい。高望みをするよりはむしろ、

現在二六歳。日本人の平均寿命からいくと人生の1/3といったところであろうか。高校卒業後、親元を離れての四年間を、思いっきりの開放感と、少しばかりの望郷の念と、ごくわずかの家族への思いを感じながら過ごし、再びこの町に戻って来て、四度目

の夏を迎えようとしている。「切に望まれて戻って参りました。」ということにしておきましょうか。
「帰ってまいりました」はいいが、当然の如く仕事なしというでかい壁にぶち当たったことは言うまでもない。私の場合、自由になる時間が有

り過ぎるという事は、何事にも無気力になるという事でありまして、「こんなはずじゃなかったのに」と悲劇のヒロインを気取ってた大馬鹿者だったわけである。

その後、俗に言うフリーアルバイターなる職業に就き気楽な日々を送っている間に時代も昭和から平成へと移り、某社の書類の年号を昭和から平成に訂正しながら、「今日も暮れ行く昭和も暮れ行く」とつぶやきながら、「時代が変わったって、何も変わりはないわよ。私の暮らしは・・・」と思っておりましたら、それがそうでもなかった訳で、平成元年三月よりここ（森泉荘）で勤務させていた。だくことに相なった訳である。

森泉荘職員紹介

平成元年度の森泉荘の職員配置と寮母の担当についてご紹介いたします。（七月一日現在）

仕事に行っても何もするところがなく日に何度も時計を見ていたこれまでと違いここで一日はあつという間である。時間に追われる生活の中でふと思うことは、「古い」はいずれ誰にも確実に訪れるものであるが、今の時点で「古い」を自覚することの難しさである。とともに、「古い」の日の支えを社会の上に確保することが必要不可欠なものであるということであり、それは単に経済的援助だけであつてはならないということである。私にとつて、仕事にゴールはないが人生最大のゴールはそろそろと思う今日此の頃である。

（新任寮母）

調理主任：田中 トシ子

調理員：三浦 秀子

同：森川 孝子

同：庄司 孝子

看護主任：庄司 郁子

看護婦：千貝 徳子

寮母主任：吉田 千ヨ

寮母夫：（担当別）

1・ナンテン：柴田 信行

2・コメツガ：金 美香

3・ウメ：鈴木 和子

5・ヤムユリ：土佐 恵子

6・モロビ：三浦 京子

7・ヤマブキ：玉造 鈴子

8・コブシ：庄司 綾子

10・リンドウ：羽場 星子

11・サザンカ：庄司 京子

15・サツキ：九嶋 智子

16・タケ：吉田 孝子

17・マツ：春日 葉子

介助員（リハビリ・レク）：永井 直人

パート職員：柴田 孝子

柴田 孝子

志渡 孝子

管理宿直専任：田中 兼雄

生活指導員：松橋 照己

以上の職員で利用者の皆さんのお世話をさせていただいています。

どうか、面会のおりなど、担当寮母や看護婦、事務職員その他の職員に気軽に声をかけられまして、お年寄り状態を確認していただけますようお願い申し上げます。

（生活指導員）

施設長：庄司 善男

栄養士：庄司 栄子

事務員：柏木 正人

同：石川 眞利子

管理：三浦 馨

13・サクラ：庄司 眞喜子

厚く御礼申し上げます

昭和六三年二月

平成元年六月

奉仕

慰問

- 二月一五日 前田保育所
- 二月二九日 前田更生保護婦人会
- 五月二〇日 阿仁部美容師組合
- 六月二四日 庄司 和子

善意

- 藤嶋 絹蔵
- 国塚 重右衛門
- 佐藤 アキエ
- 岸 シエ
- 日本たばこ大館営業所
- 伊藤 鉄治
- 篠内 耕平
- 篠内 史子
- 前田 母子会
- 巻 刈 婦人会
- 鈴木 ハツノ
- 前田更生保護婦人会
- 柴田 淳蔵

敬称は略させていただきます。

『森泉荘日記』

昭和六三年

二月一日 『森泉荘だより』第四号発行。

二月二日 映画会。アニメなど。

二月五日 前田保育所園児慰問。遊戯、合奏などに大喜び。

二月一九日

クリスマスツリー飾り付け。木は「北秋田地方林業後継者連絡協議会」より寄贈。

二月二六日

誕生会、年忘れ大会実施。利用者、職員共にゲームを楽しむ。

二月二八日

餅つき大会。お供えを作り、残りをあんやきなどで食べてもらう。

二月二九日

正月帰省開始。

昭和六四年

一月六日

第一回宝引き大会。童心にかえって楽しむ。

平成元年

二月二日

節分行事。掛け声は低かったが豆をまく手は力強かった。

三月三日

雛祭り行事。雛人形に歓声。桜餅。鶯餅を喜ぶ。

五月一日

自由ドライブ開始。第一回は二名。大館市へ

五月八日

屋外昼食会。外での食事は進むようでおかわりする人も多い。

五月二九日

春の避難訓練実施。鷹巣阿仁広域消防署、森吉分署の指導を受ける。

五月三〇日

映画会実施。「私版・猿倉人形」他。

六月一日

第一回茶話会実施。職員との話しがはずむ。おやつを提供してくれた。

☆新入所者紹介☆

- 杉 刈 フヨさん(七九) 森吉町
- 野 村 よしみさん(七九) 森吉町
- 長 内 勝 美さん(六〇) 鷹巣町
- 菊 地 ナヨさん(八六) 大館市